

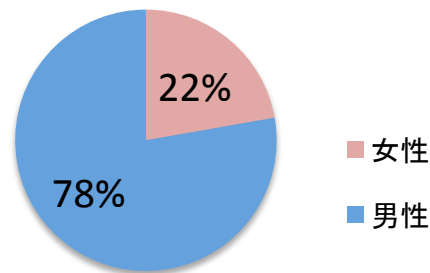
◆ 学会発表における女性のリーダーシップに関するアンケート結果（2012年大津大会） ◆

本アンケートの目的： 学会におけるリーダーシップ活動において性比のバイアスやバリアがあるか、検証する。

I. 学会員の構成とアンケート回収率

学会員の男女比

	2011年度（括弧内の数値は総数に対する割合）			
	一般会員数	学生会員	総数	男女比
女性	476 (50%)	484 (50%)	975	22%
男性	2493 (75%)	869 (25%)	3410	78%
合計	2969	1353	4385	100%



学会員に占める女性の割合は22%とそれほど高くない。

しかも、**女性会員の50%は学生会員**であり、男性会員の25%と比べて、学生会員の割合が高い。

裏を返せば、**シニアの女性会員が少ない**ことを意味している。

	大津大会		アンケート回答数		アンケート回収率	
	参加申込者総数	一般講演者総数	参加申込者	一般講演者	参加申込者	一般講演者
女性	—※1	—	113	90	—	—
男性	—	—	231	181	—	—
合計	1997	46%	348	271	17%	20%

大津大会参加申込者は学会員の46%。うち、一般講演者は学会員の31%。

アンケート回収率は、参加申込者で17%、一般講演者で20%だった。

※1 参加申し込みの際に、性別を登録していないので、参加申込者および一般講演者の男女比および男女別の回収率は得られなかった

II. シンポ等企画者・講演者の回答率

	企画者総数※2	男女比	回答者数	回収率	講演者総数※2	男女比	回答者数	回収率
女性	27	20%	10	37%	46	18%	11	24%
男性	111	80%	13	12%	209	82%	34	16%
合計	138	100%	23	17%	255	100%	45	18%

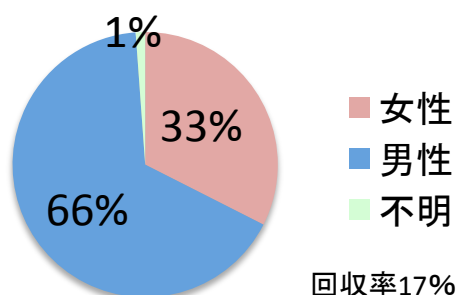
回収率は、シンポジウム等企画者が**17%**、シンポジウム等講演者は**18%**。特に**男性の回収率が低い**。

※2 プログラム集から集計した。

III. アンケート回答者の属性

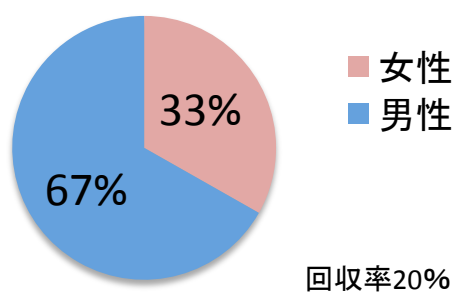
i) 男女比

大会参加者の男女比
(アンケート回答より)



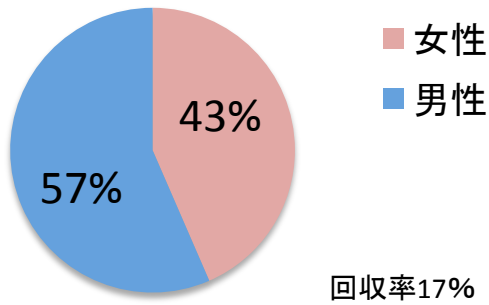
回収率17%

一般講演者の男女比
(アンケート回答より)

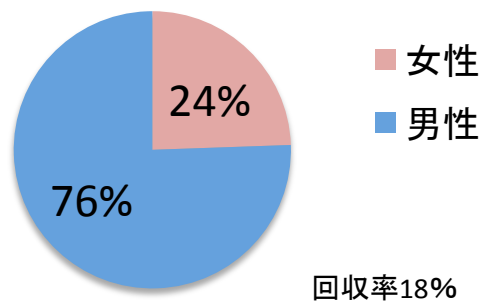


回収率20%

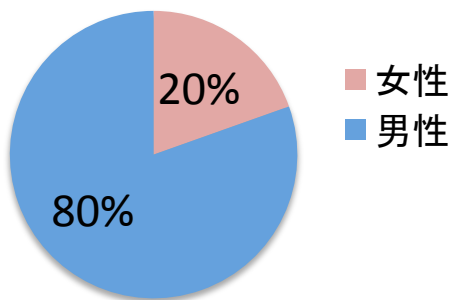
シンポ等企画者の男女比
(アンケート回答より)



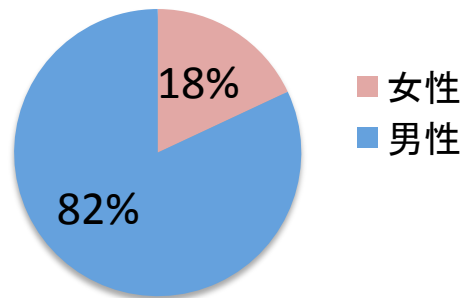
シンポ等講演者の男女比
(アンケート回答より)



シンポ等企画者の男女比
(プログラム集より集計)



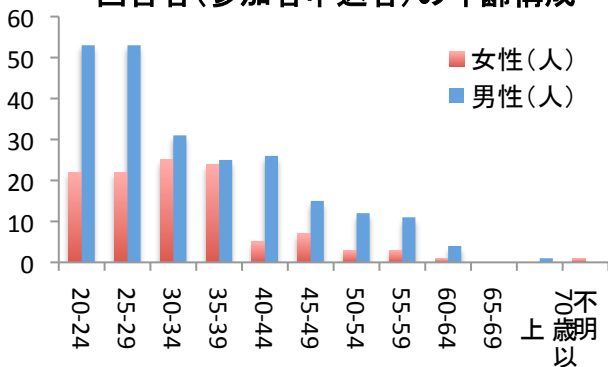
シンポ等講演者の男女比
(プログラム集より集計)



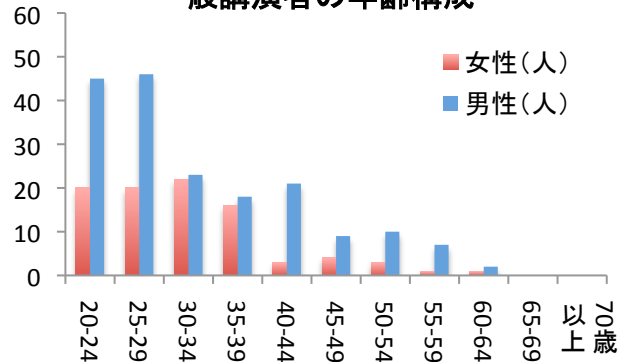
アンケート回答は、実際のシンポ等企画者・講演者の男女比を反映していない
(男性の回答率が低いため)

ii) 年齢構成

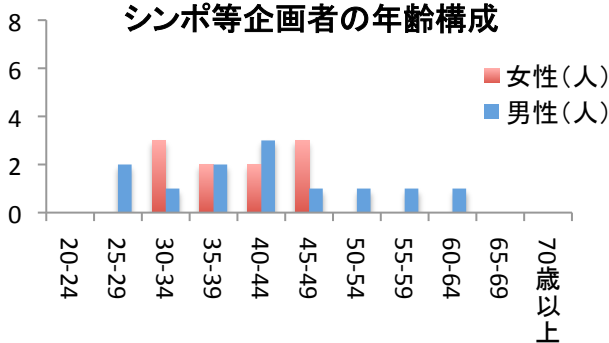
回答者(参加者申込者)の年齢構成



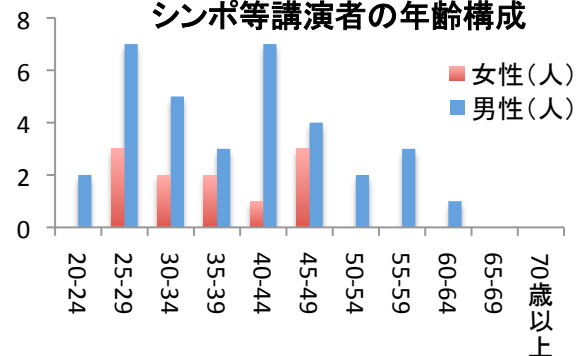
一般講演者の年齢構成



シンポ等企画者の年齢構成



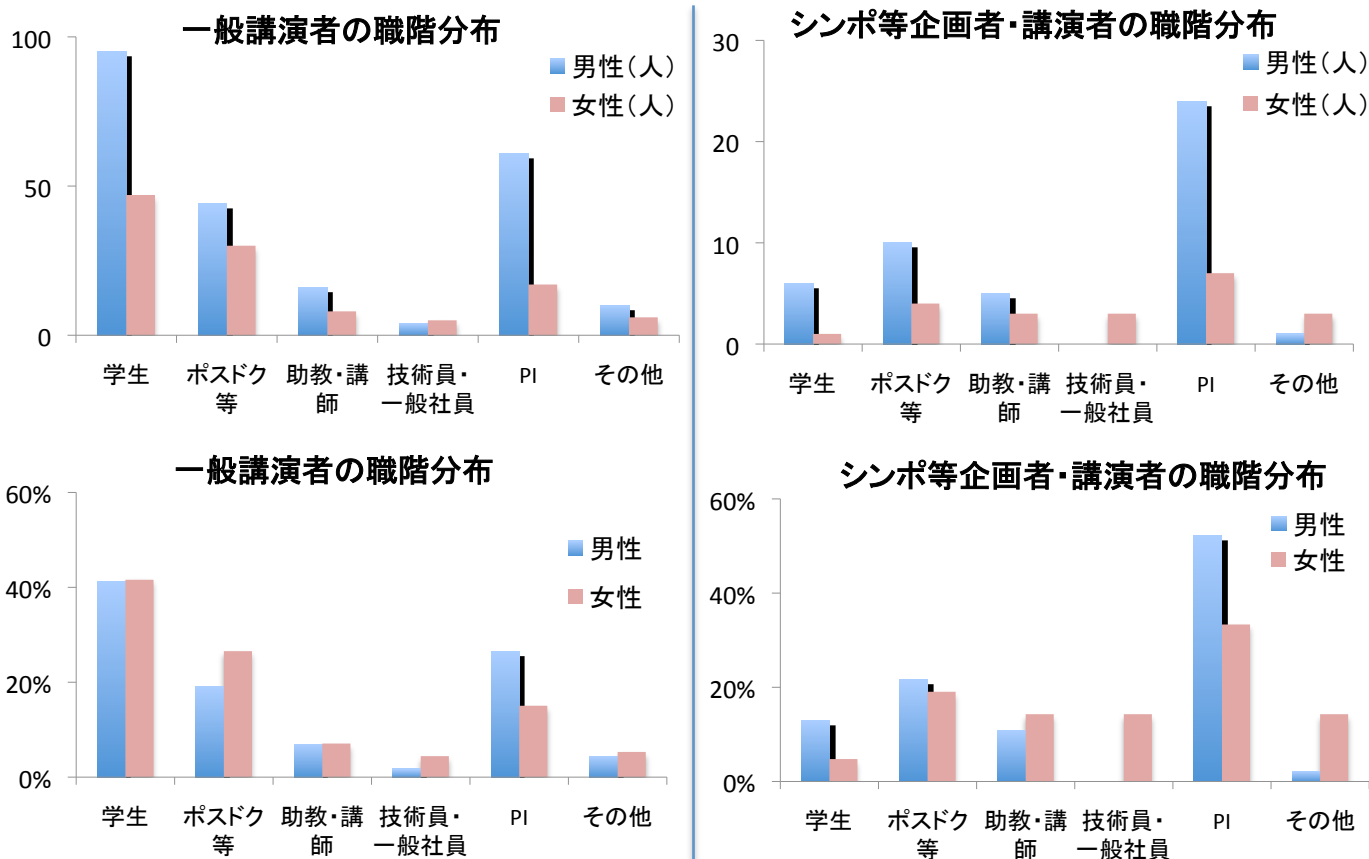
シンポ等講演者の年齢構成



参加者・一般講演者は、若い世代が多い。女性は40代から激減する傾向。

シンポ等企画は中堅・シニアが中心。シンポ等企画者・講演者にシニア世代の女性がいない。

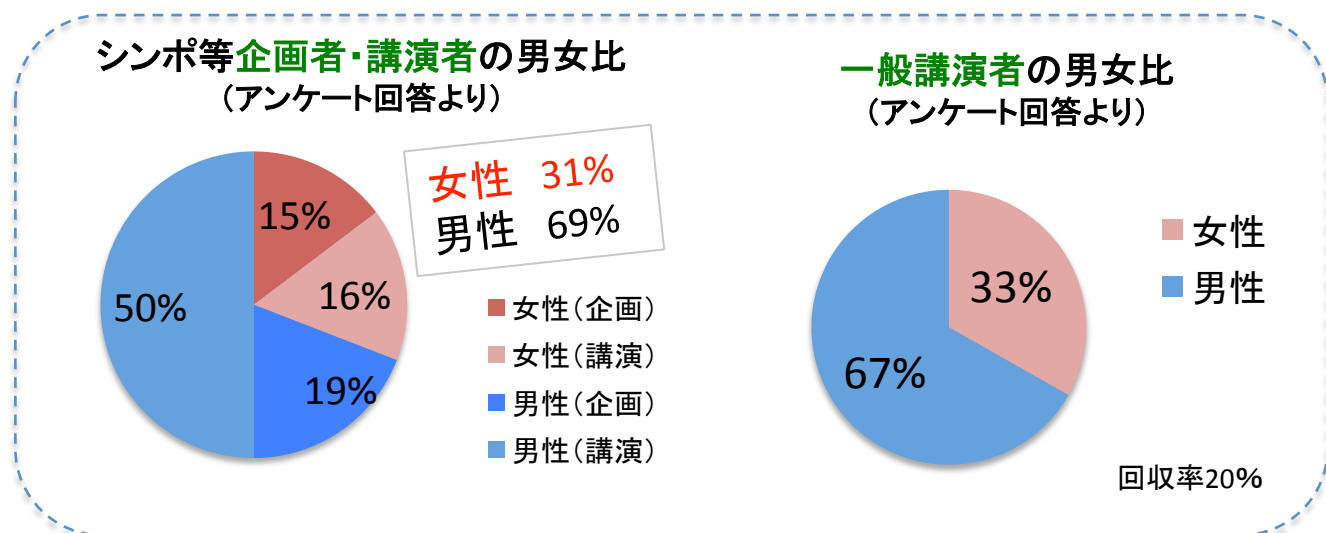
iii) 一般講演者とシンポ等企画者・講演者の職階分布



※PI=A principal investigator(准教授、教授、チームリーダー、課長クラス等)

男女の分布の違いに着目すると、一般講演者では女性はポストドクの割合が多く、PIの割合が低い傾向。また、シンポ等企画者・講演者については、女性はPIの比率が男性に比べて低い傾向にある。

Ⅲ. 生態学会におけるリーダーシップ活動に性比のバイアスは存在するか？

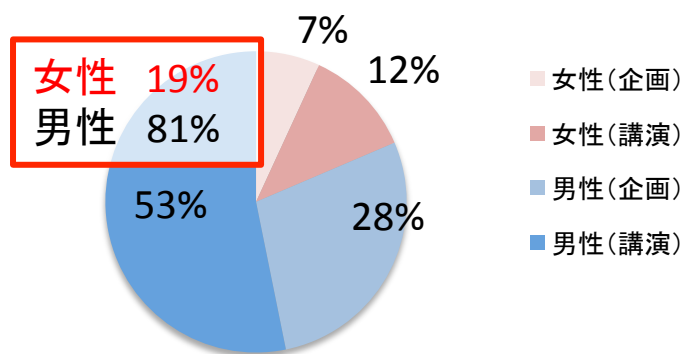


アンケート結果ではシンポ等企画者・講演者における女性比率は、一般講演のそれと、ほぼ同じ程度。

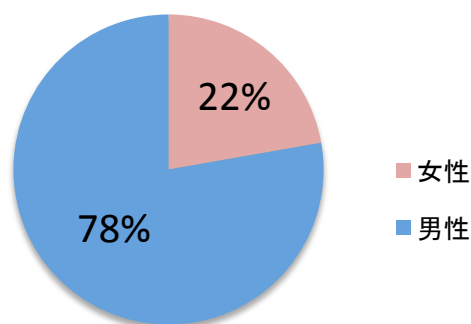
生態学会ではリーダーシップ活動に性比のバイアスや壁はない？

ただし、アンケートの回収率が低いのと、男女の回収率に差があるので、念のため、アンケート以外の統計値を使ってみると...

プログラム集から集計した
シンポ等企画者・講演者における
男女の比率



2011年度の
学会員の男女比



女性の比率は19%に下がるが、**学会員における比率と同程度**。
女性だからと言って、リーダーシップ活動に参加できていないわけではないだろう。

学会間の比較 数値は各集団における女性の比率(%)を示す

	生態学会	分子生物	発生生物	植物生理	植物	園芸	遺伝
学会員	22	25	22	21	20	14	18.5
シンポ講演者	18	8	14	16	18	17.5	16
シンポ企画者	20	6	7	15.8	21.5	12	17

※データは第9期第一回男女共同参画学協会連絡会運営委員会資料から読み取った

学会員の女性比率よりもシンポジストの女性比率が低い学会が多い中、
生態学会は女性がリーダーシップ活動に参加できていると言えるだろう。

IV. アンケートの解析過程で見えてきたこと

- ・シンポジウムの企画者や講演者に若い世代(学生、ポスドク等)が多い(男女共に)。
 - ⇒ **若い世代が活躍していることが伺える。**
- ・男性の参加者および一般講演者の年齢分布を見ると、年齢が上がるにつれて人数が緩やかに減っているが、女性は40代まではほぼ一定で、40代を超えると急に減少している。
- ・一般講演者およびシンポジスト共に、男性に比べて女性のPIが少ない傾向。
- ・他の学会と比べると、**女性のリーダーシップ活動にバイアスやバリアがあるとはいえない。**

V. 今後アンケートを実施するにあたっての課題

天津大会参加申込HP上でのアンケート回収率は、17~20%と非常に低かった。他の学会では90%以上を達成していることを考えると、今後のアンケート方法の改善が望まれる。今後もアンケートを継続し、今回のアンケート結果の妥当性を検証し、経年変化を追跡する必要があるだろう。